



平成 20 年 7 月 30 日

各 位

会 社 名 オエノンホールディングス株式会社
代表者名 代表取締役社長 長井 幸夫
(コード番号 2533 東証・大証・名証第一部、札幌)
問合せ先 コーポレートコミュニケーション室長
高橋 孝通(TEL 03-3575-2777)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 20 年 2 月 8 日の決算発表時に公表した平成 20 年 12 月期中間連結業績予想を下記のとおり修正いたしますのでお知らせいたします。

記

1. 平成 20 年 12 月期中間連結業績予想数値の修正
(平成 20 年 1 月 1 日～平成 20 年 6 月 30 日)

(単位:百万円、%)

	売 上 高	営業利益	経常利益	中間純利益	1 株当たり 中間純利益
前回発表予想(A) (平成 20 年 2 月 8 日発表)	36,500	500	500	200	3円06銭
今回修正予想(B)	39,200	630	660	220	3円36銭
増減額(B-A)	2,700	130	160	20	—
増減率	7.4	26.0	32.0	10.0	—
前中間期 (平成 19 年 12 月中間期)実績	35,454	301	350	269	4円12銭

2. 修正の理由

中間期の業績につきましては、消費者の生活防衛意識の高まりを反映して、全般的に酒類消費需要が低迷する中、売上高については積極的な販促政策が功を奏し、チューハイ、甲類焼酎、甲乙混和焼酎が堅調に推移したため、前期並びに前回発表予想を大幅に上回る見込みとなりました。

営業利益、経常利益においても、大麦を初めとする原材料価格並びに重油の高騰があったものの、売上高の増収や原料用アルコールの効果的な購買、販売費の効率的運用により、前期並

びに前回発表予想を大幅に上回る見込みとなりました。

当期純利益については、大幅な経常利益の増益もあり、前回発表予想を上回る見込みであります。前期は投資有価証券売却益があったため、前期を下回る見込みであります。

下期の売上高も引き続き好調を維持し、営業利益、経常利益とも前期を上回る見通しであります。今後の消費動向や原料用アルコール等輸入原材料価格並びに為替相場などの不確定要素もあることから、通期の業績につきましては、前回発表予想のままとさせていただきます。

なお、上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以 上